医療安全ニュース 12 期/4 号

リスク・ホメオスタシス理論　＜　リスクと安全を意識する

リスクと安全

いらすとや H.P. :2021/11/2.

- **ホメオスタシス（生体恒常性）とは**

1.人には、環境変化など外部刺激やカラダの内部に変化があっても、自身の状態を一定範囲に保つという**生態恒常性**という能力があります。生態恒常性には、体内に入り込んだ毒素に抵抗を持たせるため体温を上昇させ免疫系を活性化することや、気温が熱いときに発汗する、寒いときに震えるなど、**免疫・体温などカラダの状態を一定に保ち続ける**ことをいいます。

- **リスク・ホメオスタシス理論**

1. 1982 年ジェラルド・ワイルドというカナダの心理学者が提唱した理論で、「人は個々にリスクの目標水準があり、たとえ道具や環境を安全にしても従来のリスク水準を維持するように行動してしまう。結果として、リスクは変化しない」という考えです。つまり、様々な安全対策（技術やしくみなど）により安全を向上させたとしても、人間の行動がかえってリスキーな方向へ変化してしまい事故を起こす確率は変化しない」とするものです。リスク恒常性理論ともいいます。
2. リスク恒常性の例として、北欧では氷上での運転講習（スキッド訓練：わざとタイヤを滑らせる）を実施した所、その講習により自信を持った受講生たちの事故がかえって増加し以後の講習会は中止になりました。ドイツの連邦交通省によるミュンヘンのタクシー運転手の調査では、ABS（アンチロックブレーキシステム）装着車の方が速度が高く車間距離が短かったため事故件数は多かったとされています。やや極端な例ですが、見た目にも立派な防波堤ができると避難訓練の参加率が減少するとのこと。
3. 本理論には、重大事故の減少事例やそんなわけない、との反対論文も多数有ります。ご存じの通りボルボ社が開発した三点式シートベルトでは多くの命が救われていますし、シートベルトの装着で安心感はあっても「シートベルトしたので危険運転しちゃおう！」とは普通は思いません。

- **大切なのはリスクと安全を意識するということ**

1. 狭く急峻なカーブの続く山道で、ガードレールが無いところでは慎重にゆっくり運転しますが、ガードレールのあるところではついスピードを出しがち、といわれればそうかもしれないと思ってしまいます。しかし、ガードレールの有無にかかわらず路面状態に注意する、カーブではスピードを十分落とすことや急に動物が飛び出てこないか気を配る、など**リスクと安全を意識する**運転は出来ることだと思います。
2. 画像診断報告書結果を患者さんに伝えるのを失念し病態が進行し謝罪した、といった事故は今でも報道されていますが、某病院では莫大なコストをかけ画像診断報告書をチェックしたかどうかをチェックするシステムを整備しました。完璧なシステムが完成したそうですが、ココで安心してしまうとリスク・ホメオスタシス理論そのままになり事故が再発する可能性も否定できません。なぜなら、最も大事なのは「患者さんに画像診断報告書の内容を正しく説明する事」でありチェックしたかどうかではないからです。「安全になったぞ！」と自信を持つのではなく「いやいや念の為、本当に大丈夫？念の為」との考え方も必要です。
3. 医療現場では患者さんに安心・安全な医療が提供できるよう様々な工夫が実践されています。リスク・ホメオスタシス理論は「全くその通り」とはいえないケースがあることも認識しつつ、「自信過剰にならず、安心しないで、意識して」といった注意喚起を与える存在として、**潜在的リスク（常にリスクがある）を認識することや、安全を意識しながら業務を実践する、**ことの教示と捉えるべきかもしれません。**全ての医療行為は多かれ少なかれ侵襲を伴なっている、だから決して間違ってはいけない**、を肝に銘じましょう。

参考・引用
・ジェラルド・J・S・ワイルド「交通事故はなぜなくならないか リスク行動の心理学」新曜社 芳賀繁訳.2007/02.・芳賀繁「リスク・ホメオスタシス説.論争史の解説と展望」交通心理学研究。

職員の皆様へ：お読みになりましたら下記へサインをお願いします。院内ラウンド時に確認させていただきます。